

安心・つながりプロジェクトチーム ヒアリング資料

～ 豊中市の取組みについて ～

- ①小学校区を単位とした地域自治（地域づくり）の取組み
- ②ヤマト運輸や郵便局と連携した見守り体制の整備

豊中市／令和7年（2025年）7月2日

① 地域自治（地域づくり）の取組み

豊中市市民協働部地域連携課

豊中スタイル「地域自治組織」について

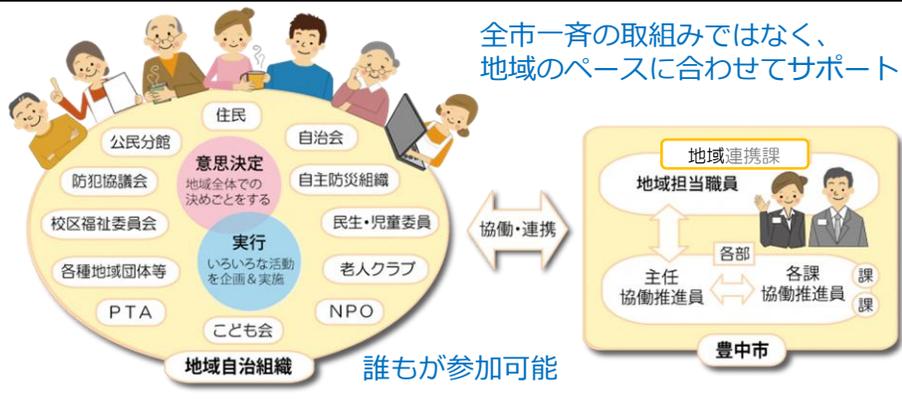
～小学校区を単位とした地域自治（地域づくり）の取組～

- 豊中市では、平成24年（2012年）4月に豊中市地域自治推進条例を施行し、複雑化する地域課題に対して、小学校区にある様々な団体が個別に専門分野のことを話し合っていたがこれまでの形ではなく、専門性を持った団体のみなさんがひとつのテーブルに座って話し合っていた「地域自治組織」の取組を進めています。
- 地域自治組織の検討及び活動では、市職員が伴走しながら、地域のみなさんが中心となって、それぞれの地域の特色にあった手法で、時代にあった地域づくりを進め、地域が活性化していくことを大切にしています。

制度設計の変遷



地域自治のイメージ図



段 階	市の支援
ステップ 1 (気運形成段階)	<ul style="list-style-type: none"> ●出前講座、地域自治説明会 ●地域力診断（地域カルテ作成） ※人口などの基礎データ、防災・福祉などの分野別情報、地域住民が日頃から感じているコミュニティ情報を集約 ●校区内事業者ヒアリング ※関係人口の創出として、地域活動への参画状況や意向について聞き取り ●ワークショップ「地域の大会議」
ステップ 2 (検討段階) (準備段階)	<ul style="list-style-type: none"> ●検討会への助成金 ・最大30万円（3年まで） ・会議や広報などの活動に活用 ●住民アンケート実施の支援 ・地域課題、住民ニーズを探り、地域自治組織の事業に反映 ●全戸配布に加え、QRコードによるデジタル対応も取入れ ●交付金ルールのレクチャー ●地域自治組織設立にかかる書類作成フォロー
ステップ 3 (初期段階) (発展段階)	<ul style="list-style-type: none"> ●地域自治組織への交付金 ・年間最大300万円 ・校区ごとに上限あり ・地域の課題解決の活動に活用 ●総会、役員会、運営委員会での事業運営に関する助言 ●地域づくり活動計画作成のための助成金 ・最大20万円（3年まで） ・会議や印刷などに活用

令和7年度（2025年度）の取組み【進行中】

- 中豊島小学校区 NSN協議会（児童の安全・安心を守る会）がベース
 - 実施時期
令和7年6月7日(土) ※22名が参加
 - 実施内容
校区の「いいところ」「気になるところ」を出し合う
 - 校区課題
 - ・地域の情報が入ってこない。
 - ・校区の南部に自治会空白エリアが集中している。
 - ・地区防災圏（小学校区）自主防災組織が未結成。

自治会エリア図（中豊島校区）

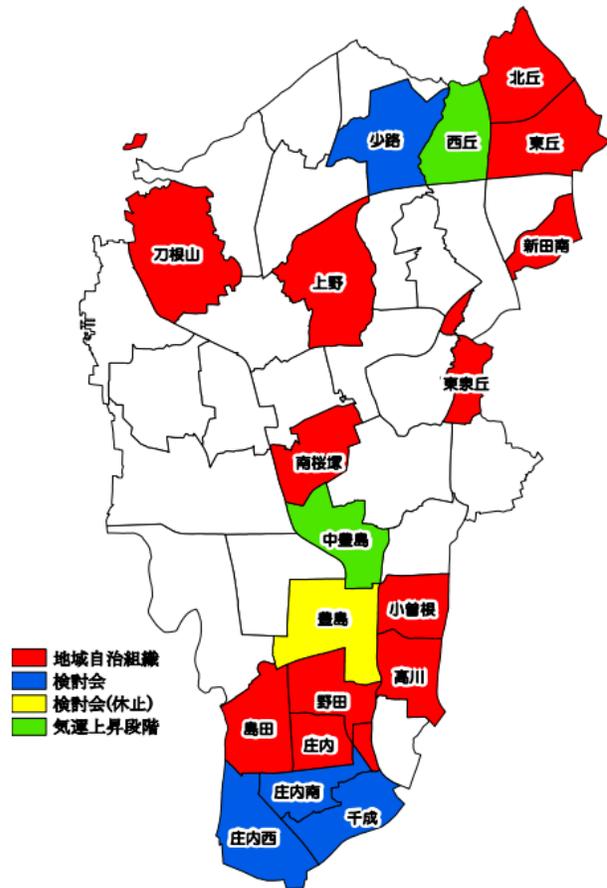


- 「思い・考えのシェア」
 - ・自分からは見えていない問題が出てきてハッとさせられた。
 - ・自分の近所以外のことは知らないことが多いと気が付けた。
 - ・人の気持ちはそれぞれと言うが、自分とほぼ同じ意見の人がいたのでうれしかった。
- 「今後への期待感」
 - ・地域のことを大切に思い良くしていきたいと考えている方とお話できて良かった。
 - ・色々な想いを集めてより良い地域を残せたらと思う。
 - ・地域づくりに協力的な人が多く少し安心した。
- 「参加者の拡充」
 - ・他にもいるはずだと思うのでそういう方々に参加していただくにはどうしたらよいか考えたい。
 - ・今まで参加したことのない方々も気軽に参加していただけたら。
 - ・もっと若い人も集まってもらえる会になると良いな。
 - ・色々な分野、年齢層の参加が望まれる。

地域のことを一番良く知る住民が、必要な取組みを話し合い、協力しながら進めるひとつの手法が豊中スタイル「地域自治組織」

地域自治組織の設立状況 (R7.7.2時点)

12/41校区 (約3割) で結成
 現在、4校区が検討会活動中
 (いずれも令和8年度設立予定)



●会議運営

- ・総会
- ・役員会
- ・運営委員会 (全体会)
- ・各種部会 (防災、防犯、広報など)



●防災・防犯活動

- ・防災訓練
- ・防災セミナー
- ・防災啓発施設へのバスツアー
- ・防災資機材の整備
- ・防犯セミナー
- ・夜のまち歩き (防犯)



●イベント開催

- ・盆踊りの復活
- ・夏フェス
- ・キャンドルナイト
- ・マルシェ
- ・ウォーターバトル
- ・花火大会



●講座開催

- ・スマホ講座
- ・親子プール教室
- ・まちづくり講演会



●その他

- ・子ども食堂
- ・高齢者・こどもの居場所
- ・オリジナルキャラクターづくり



●情報発信

- ・広報誌発行
- ・ホームページ運営
- ・掲示板管理



《きっかけ》

- ・大規模災害への不安 (地域防災力の強化)
- ・コロナ禍で希薄になった地域コミュニティの立て直し
- ・小中一貫教育の推進にかかる校区再編など

《成果 (ヒアリング結果) 》

- ・事業資金の充実
- ・広報誌の全戸配布により校区住民に情報共有
- ・地域の結束力の強化、緩やかな見守り
- ・人材の発掘 (大学生や子育て世代の参加) など

《好事例》

- ・住民アンケートの際、活動に協力したいと25名の方が名乗り出られた。
- ・会員ではなく、都合に合わせて参加できる「サポーター制度」の導入で体制が充実。
- ・みんなで考えて、防災マニュアルや防災マップを作成。以降、防災訓練で検証し更新。
- ・設立した校区のクチコミで、複数校区から地域自治の説明が聞きたいとの問合せ。

②-1 ICT見守りサービス事業について

豊中市福祉部長寿安心課

LED電球と通信機能が一体となった「ハローライト」を使った見守りサービス

ひとり暮らし等の高齢者が、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう自立支援を図ることを目的に令和4年3月に事業を開始

【内容】

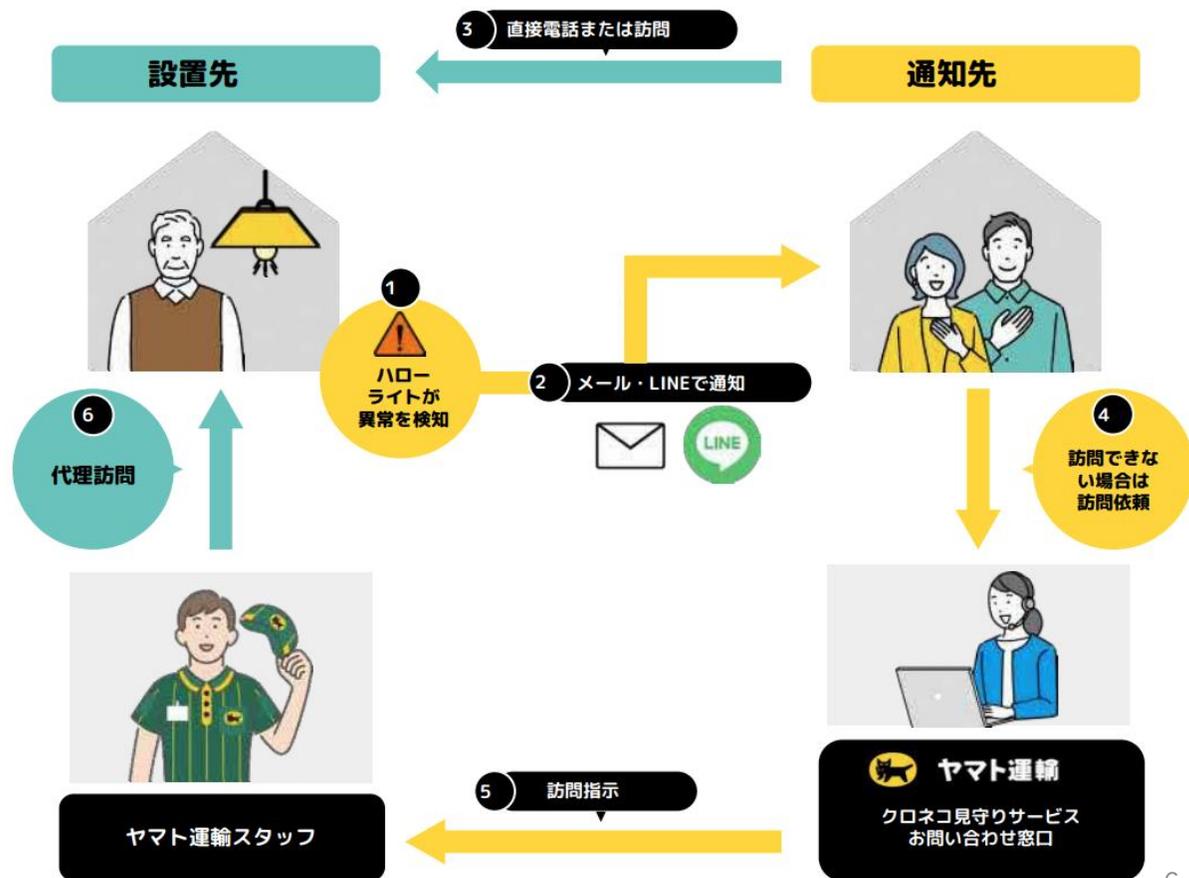
- ・ 電球の点灯／消灯の動きが24時間に一度もない場合、事前に設定した連絡先にメールで異常を通知
- ・ 通知先から依頼があれば、ヤマト運輸のスタッフが設置先を代理訪問し、状況を確認

【対象者】 豊中市内在住の65歳以上のひとり暮らしの方

【利用料】 無料（全額市負担）

【委託業者】 ヤマト運輸株式会社

【予算額】 18,279千円（令和7年度）



2. ICT見守りサービス事業の実績・効果・課題

設置台数:916台(令和7年3月末時点)

ひとり暮らし高齢者は年々増加
ICT見守りサービス利用者も増加傾向(月平均33件申請)

効果①

高齢者および家族の安心

- ・異常メールの通知を受け、駆けつけると熱中症で倒れていた。救急車を呼び命を救うことができた。
- ・電話がつながらず代理訪問で確認してもらったところ、病院に入院していることがわかった。

効果②

民生・児童委員等の地域の見守り活動を行っている人や職員の安否確認業務の負担軽減

- ・代理訪問で状況を確認するが、応答がないため消防・警察を要請。腰が痛く動けず、救急車で搬送。

課題

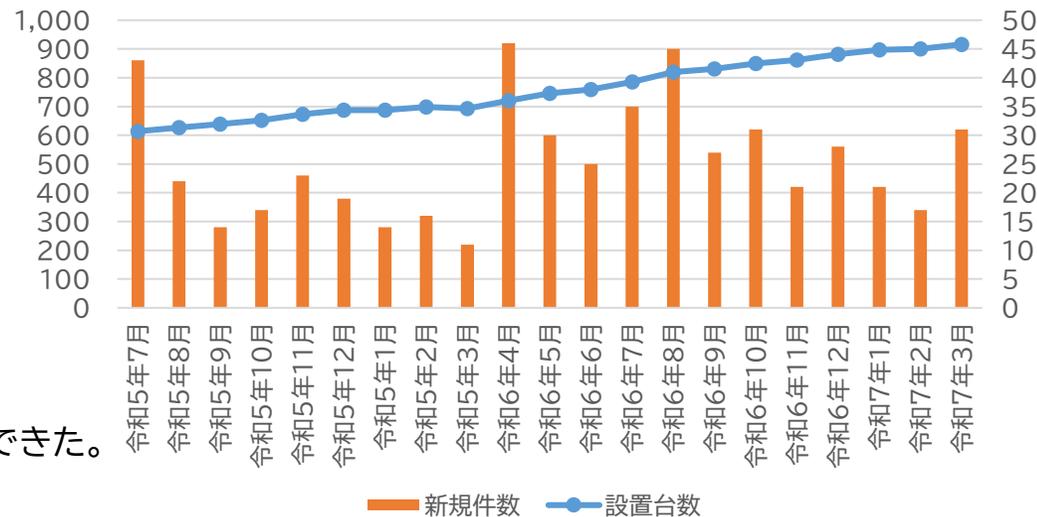
身寄りのない高齢者が利用しにくい



身寄りのない高齢者も利用しやすい環境の整備

豊中市身寄りのない高齢者支援事業補助制度を創設

ICT見守りサービス 利用状況



3. ICT見守りサービスの拡充 ～身寄りのない人の支援～

課題

緊急連絡先が必須のため、身寄りのない高齢者が申し込みにくい

身寄りがなく緊急連絡先の確保ができず、申請ができない人もいる

民生・児童委員やケアマネジャーが緊急連絡先となっているが、負担が大きい

緊急連絡先の親族（兄弟）も高齢者で、異常時に連絡してもが入院などで連絡がつかない場合もある

NEW 令和7年8月開始予定

豊中市身寄りのない高齢者支援事業補助制度を創設

ICT見守りサービス利用時の緊急連絡先の確保や終活等の相談に要する費用を補助金として交付

【実施内容】

- ・ 緊急連絡先の確保が難しい人に、ICT見守りサービスの利用に際して必要な緊急連絡先の確保などの支援にかかる費用を補助金として交付
- ・ 終活等の相談、異常通知受信時の対応（関係者確認・救急要請など）、機器撤去の立ち会いなどのサービスにかかる費用についても補助

【対象者】市内に居住し、ICT見守りサービスの利用を希望する65歳以上のひとり暮らし高齢者で、ICT見守りサービスの利用にあたり、緊急連絡先として登録できる親族・後見人等がない人

【補助上限額】初期費用11,000円、月額利用料550円、ICT見守り機器撤去立ち会い費用3,300円を上限に市が負担

福

健康福祉・子ども

大阪府豊中市(とよなかし)

IoT電球を活用した見守りサービス

■人口
398,087人
■世帯数
180,569世帯
令和6年4月1日時点

INTERVIEW



豊中市
福祉部 長寿安心課
しまだ ゆうこ
係長 島田 裕子さん
ふかたに
深谷 まさみさん

ハローライトの特徴



- 工事不要
- コンセント不要
- 通信機器不要
- いつもの生活に溶け込み抵抗感なく利用可能!

見守りと異常時の代理訪問で家族と職員をサポートする。

本格化する超高齢社会で高齢者見守りの需要は増大し、人手不足が深刻化している。そんな中、豊中市では自宅の電球のオン・オフで高齢者の異常を察知するサービスを導入し、家族と職員の負担軽減を図っているという。担当者に話を聞いた。

高齢者見守りの需要増加によって、自治体の人手不足が深刻な問題に。

福祉分野の事業に意欲的に取り組んでいる同市。配食サービスによる対面での見守りから始まり、時代に合わせて様々な取り組みを推進してきた。現在は、地域住民からの通報を受け、職員が高齢者の自宅を訪問するなど、様々な見守り事業を行っている。しかし、超高齢社会でこれら事業の需要は増えつづけ、職員の負担は増大していったという。「通常業務に加え、急な出勤であることから訪問はかなり大変でした。できる限り多くの人を見守りつつ、業務負担を軽減する必要があったのです」と島田さんは振り返る。

そこで、この状況を打破するために、様々なサービスを比較・検討することに。最終的に導入を決めたのが「ヤマト運輸」が提供する「クロネコ見守りサービス ハローライト訪問プラン」だ。

これはLED電球と通信機能が一体となったIoT電球をトイレなどの毎日使うところに設置し、電球のオン・オフが24時間ない場合は、設定したメールに通知するというものだ。「電球の設置はもちろん、異常の検知後に誰も駆け付けられない場合、同社

設置から訪問までワンストップでサポート



高齢者見守りサービスの拡充と職員負担軽減を同時に目指す

1 異常の通知だけでなく代理で訪問も行う

点灯と消灯の動きが24時間一度もない場合は、異常を検知しメールで通知。依頼により同社スタッフが利用者宅を代理訪問する。

2 自宅の電球を交換するだけで利用可能

全国に拠点をもつ同社のスタッフが訪問し電球を交換。工事やWi-Fiなどの通信機器も不要で、すぐに利用を開始できる。

3 分かりやすい価格設定で導入しやすい

同サービスは1人当たり月額税込1,078円*で初期費用不要。月ごとに利用数を変更でき、利用分のみの費用負担でムダがない。

※令和6年4月時点

スタッフが代理訪問してくれます。職員の業務だけでなく、離れて暮らす家族の負担軽減と安心につながっていると思います」と深谷さん。また、自治体が導入するにあたり、初期費用が不要な点や、分かりやすい価格設定であることも魅力のようだ。

異常検知後のメール通知と訪問で実際に高齢者の命を救えた例も。

利用者が日常生活の中で特別意識せず、無理なく使える同サービス。設置後、実際に利用者の命を救えた例もあるそうだ。「異常通知を受けた家族が利用者のもとを訪問したところ、熱中症で動けなくなっているのを発見。すぐに病院に連れて行くことができ、回復したそうです。後日、家族からお礼の電話があり、とても印象に残っています。事業がきっかけで早期発見につながり、命を救うことができたのはうれいしですね」と2人は顔をほころばせる。

また、思わぬ場面でサービスが活用されたこともあるようだ。「ブレーカーが落ちており、そもそも電気が一切使えずに困っている利用者を発見した例もありました。特に夏場などに電気が使えないのは致命的。想定していた利用方法とは異なりますが、こういった異常を察知できたのも、事業の成果といえるのではないのでしょうか。」これらの事例のように、電球のオン・オフ

担当者の悩みと導入後の声



- 高齢者福祉サービスを拡充したい
- 高齢者見守りにかかる負担を軽減したい
- 見守り事業のコスト面を見直したい



- ICTによる見守りと訪問で高齢者だけでなく家族も安心感がある
- 見守りの担い手不足解消につながる
- 分かりやすい価格設定なので利用を継続・拡大しやすい

高齢者も家族も安心して暮らせるまちへ



オプションサービス

※令和6年より自治体向けに新設

- 1 けがなどの診療費補償
入院日額や通院日額の一部を補償。
- 2 突入時の修理費用を補償
救急隊突入時に破損した扉や窓の修理費を所定の金額を限度に補償。
- 3 メディカルアシスト
24時間365日、電話での緊急医療相談や医療機関案内に対応する。メールの通知先である家族も利用可能。



※写真はイメージです

CHECK!

高齢者福祉サービスを拡充しつつ、見守り事業のコストや効率を改善したい自治体は、ぜひ相談を。

お問い合わせ

0120-86-2220

mimamori@kuronekoyamato.co.jp

ヤマト運輸株式会社
ネコソボ事業開発部
東京都港区西新橋1-24-14
西新橋1丁目ビル7F

お問い合わせ
詳細はこちら



②-2 郵便局と連携した見守り体制について

豊中市福祉部長寿安心課

日本郵便株式会社との連携による高齢者等見守り体制

豊中市と日本郵便株式会社との 包括的連携協定



令和2年（2020年）9月30日

豊中市 × 郵便局

2. 安心・安全な暮らしの実現に関すること

(1) 災害発生時の相互協力

- ・市からの緊急情報の発信への協力
- ・危険個所の通報

(2) 地域見守り活動への協力

- ・高齢者、障害者等の異変に係る通報、地域見守りに関する取り組みへの協力
- ・保安上危険な空き家にかかる通報

(3) 道路損傷等の情報提供

- ・道路損傷、不法投棄、街区表示板の損傷等にかかる通報

(4) 犯罪防止等に対する連携

- ・利用者への特殊詐欺防止等に関する啓発

(5) 認知症高齢者にやさしい地域づくりへの協力

- ・認知症サポーター養成講座の受講



郵便局と連携した見守り体制

地域見守り活動として業務中の気づきを制度や相談機関につなぐ

●安否確認ホットライン

ご近所に、最近見かけなくなったなど、**孤独死につながるような人はいませんか？**

あなたの「気づき」をつなげてください

☎06-6858-3327
**安否確認
ホットライン**

何日も郵便物が
来っていない
郵便物や郵便箱が
たまっている
旅行や入籍で家を
不在にする時は、
いつも連絡を
【おれたいめに...】

気になる
見なくなった。
そういえば
身体の不調が思いと
まっていたかも。

気がなる
サインって？

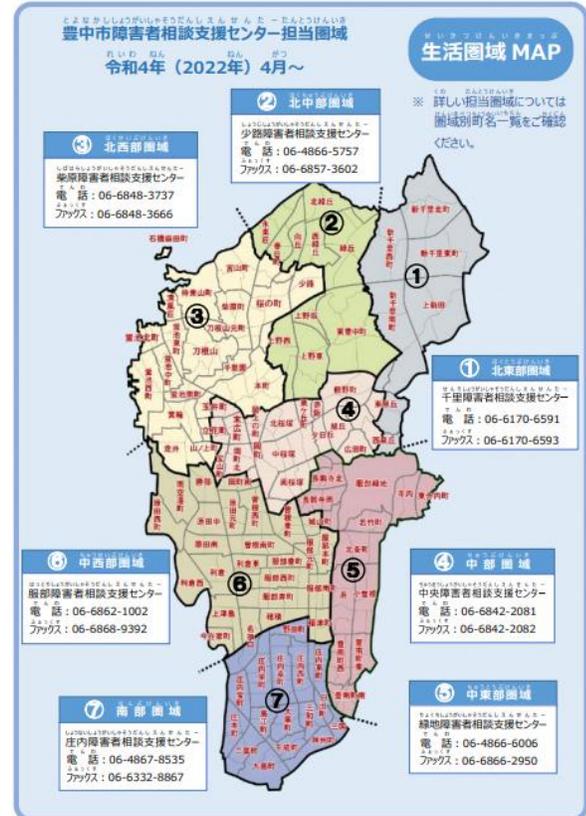
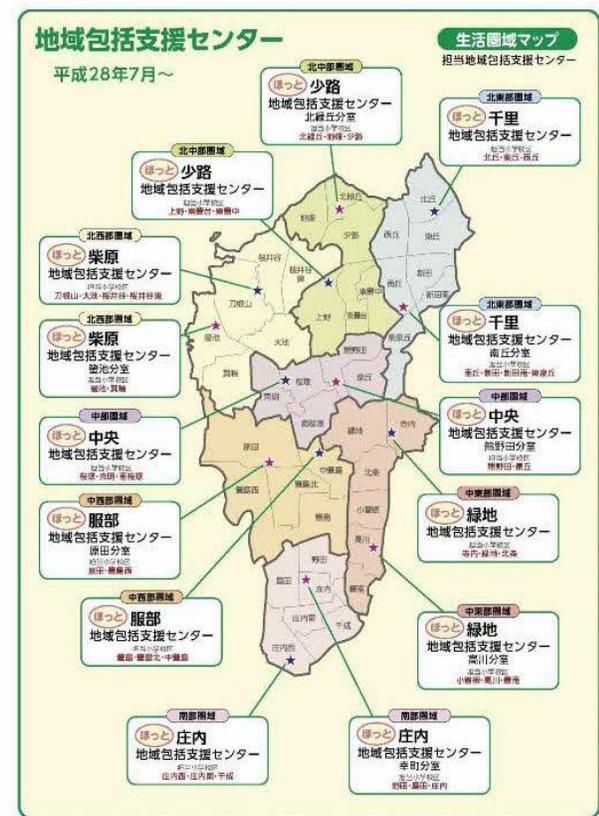
配達員が
お宅に来たのに
返答がない
電気が、テレビは
ついていないのに...

こんなサインに気づいたら...
安否確認ホットラインへ連絡してください

豊中市

- ・郵便物が溜まっている等の気づきを市に連絡。
- ・市が安否確認対象者に関わる情報を収集し、関係機関とも連携し安否確認を実施。

●地域包括支援センター 障害者相談支援センター



郵便局と連携した見守り体制（その他事業協力）

●見守りステッカー配付事業

市内4か所の郵便局で
ステッカー販売の協力。

豊中市高齢者みまもりステッカー配付事業

おかえりQR

何か困っている人がいて
おかえりQRが持ち物に貼ってあるから
スマホで読み取って家族に連絡

デモ画面見れます
連絡先読み取って
ください

おかえりQRについて

対象者：市内に居住し、徘徊（ひとり歩き）をして行方不明になる恐れのある65歳以上または若年性認知症の人

利用料金：初回1シート（5枚入り）無料
2回目以降は1シート990円（税込）
豊中本町・千里中央駅前・豊中桜塚・豊中庄内北郵便局で購入可

注意事項：シールの有効期限は初回登録日から1年間

申込方法：長寿安心課へ電子申込・郵送・窓口

発見した人は

現在の状況や場所（地図）などを個人情報を入力することなく送信できます。
「発見場所のみ通知する」、「交番へ連れていく」、「保護・待機する」ことを連絡することができます。

豊中市長寿安心課
06-6858-2856

●その他の協力

- ・事業周知協力
チラシ等を各郵便局で配架